

【数字を読み解く】20.0 ～九州の街角景気、回復幅は全国トップ～

<2020/7/3 大分合同新聞掲載>

数字は、内閣府が公表した5月の景気ウォッチャー調査にある、九州の景気の現状判断D I（季節調整値）だ。同調査は、景気の動向を敏感に反映する業種から選んだ2,050人を対象に行うことから、「街角景気」とも呼ばれる。景気の現状判断D Iおよび先行き判断D Iに加え、調査対象先から聞かれたコメントが毎月公表されている。

調査期間が毎月25日から月末で、結果が翌月の上旬に公表されるなど、速報性が高いことが特徴だ。地域別には、全国で12地域の数値が公表されており、九州は210人を対象にした結果となっている。

九州の景気の現状判断D Iは、新型コロナウイルスの感染拡大前（2020年1月）は43.8であったが、2月は26.6、3月は13.6、4月は7.0と過去最低の水準まで低下した。その後、5月は20.0まで回復した。九州の4月から5月にかけての回復幅（13.0ポイント）は、全国12地域の中でトップとなっている（2位は中国の11.7ポイント、最下位は南関東の3.5ポイント）。また、九州の景気の先行き判断D I（季節調整値）は40.5で、こちらも全国トップである（2位は四国の39.1、最下位は北陸の33.2）。

このように九州の街角景気の実感としては、緊急事態宣言の解除後、徐々に社会経済活動が戻り始めていることもあって、最悪期を脱したと感じていることがうかがえる。「景気は気から」という言葉もあるように、企業や家計のマインドは景気に大きな影響を与えることから、先行きもこうした統計をしっかりとみていく必要がある。（日本銀行大分支店）